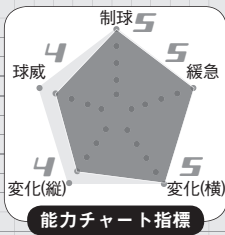


金子千尋

19

180cm / 77kg / 右投左打 / 1983.11.8生 / 33歳

「すべての球種が決め球」と言われるほど、あらゆるボールをあらゆるコースにコントロールできる日本球界最高法の投手。その投球スタイルは軟投タイプに思われがちだが、直球は最速154キロを誇り、切れ味も抜群。昨季は手術明けで不本意な成績だったが、今季は期待していい。



投手 PITCHER

ニュータイプ NEW TYPE

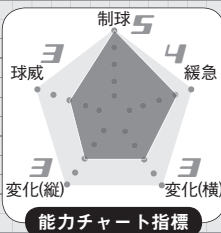
昨季は自慢のリリーフ陣が崩壊。しかし、底が見えたのは十分な収穫だった。今季はただただ、上昇するのみだ。

B.ディクソン

32

195cm / 84kg / 右投右打 / 1984.11.3生 / 32歳

昨季は来日2年目で9勝。実は奪三振率が高いわけでも制球力が良いわけでもない。しかし、QS率は75%と、その高さは圧倒的。シーズンでは9勝を挙げたが、登板はわずか20試合。投げる試合の半分近くで勝ち星を挙げているため、フルシーズン戦えれば2ケタ勝利は間違いない。

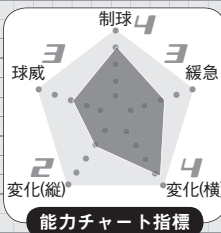


西勇輝

21

180cm / 80kg / 右投右打 / 1990.11.10生 / 25歳

本格派なのか技巧派なのか、判断に苦しむ投手。美しいフォームは技巧派のそれだが、速球、変化球のキレ、勢いは本格派そのもの。双方の「良いとこどりの」投球スタイルは、ニュータイプと呼ぶにふさわしい。10球で肩が出来上がるといわれる仕上がりりの早さも、常識外れだ。

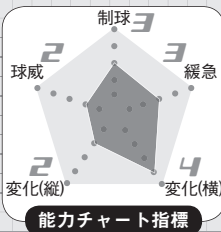


高木伴

36

180cm / 80kg / 右投右打 / 1990.6.1生 / 26歳

プロ1年目の昨季は7試合登板もまさかの未勝利に終わった。しかし、天性の肘の柔らかさを見ると、その将来に期待せざるを得ない。ちなみに、昨季の登板数が少なかった影響で今季も新人王有資格は持っており、才能豊富な大卒勢とのハイレベルな新人王争いにも期待。

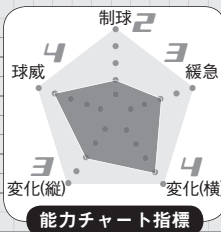


塚原頌平

59

184cm / 80kg / 右投左打 / 1992.7.8生 / 23歳

早くからブレイク候補の呼び声高かった、チーム期待の若手。平均球速と自己最高球速の差が少なく、コンスタントに高いレベルのボールを投げ込む才能を持つ。昨季、自身最多41試合に登板し、今季ブレイクへ準備は万端。まだ23歳、今後球界を代表する投手になる可能性は十分ある。





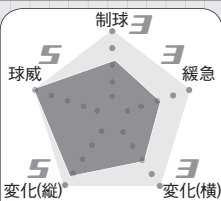
平野佳寿

16

186cm/84kg/右投右打/1984.3.8日生/32歳

日本球界屈指ともいわれる強烈なストレートが武器。落差の激しいフォークで三振を量産するあたり、クローザーの「王道」を突き進んでいる。

昨季はまさかの不調で中継ぎも経験したが、そのぶん今季にける思いは強い。リーグ最強の4シームが復活すればチームも躍動する。



能力チャート指標

投手 PITCHER

王道 タイプ STANDARD

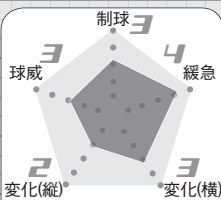
チームを支えてきた自慢の「王道系」リリーフ2人が不調だった昨季。今季はこの2人の出来がペナントを左右する!?

東明大貴

26

178cm/77kg/右投右打/1989.6.15生/27歳

プロ入り1年目から一軍ローテ入りし、2年目にローテ定着。見事2ケタ勝利を挙げた。大学、社会人を経てのプロ入りだけに、3年目とはいえチーム内で責任も出てくるはずだ。長年不在だった金子、西に次ぐ先発三番手は完全に確保。あとは上の2人を追い抜くだけだ。



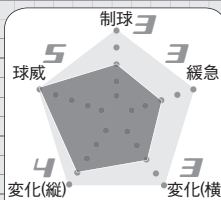
能力チャート指標

佐藤達也

15

178cm/77kg/右投右打/1986.7.26/30歳

上背はないが重心の低いフォームから投げる快速球。スライダー&フォークという持ち球は、実にセットアッパーらしい組み合わせ。昨季は平野ともども一転不調に陥った悔しいシーズンに。30歳の節目を迎える今季は完全復活をかけてのぞむ。京セラチームの8回は必ずならぬ。



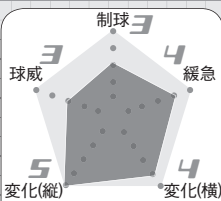
能力チャート指標

近藤大亮

20

177cm/73kg/右投右打/1991.5.29生/25歳

今季、ドラフト1位で入団した期待のルーキー。最速151キロは確かに魅力的だが、底知れぬクレーバーさもプロの世界でやれそうな予感。首脳陣からは先発としての期待されており、持っている能力をいかに発揮すれば、1年目からプロの世界で間違いなく羽ばたける。



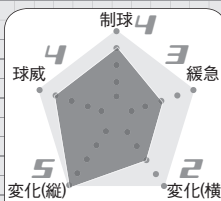
能力チャート指標

吉田一将

14

191cm/92kg/右投左打/1989.9.24生/27歳

プロ1年目から初勝利を挙げ7回一死まで完全試合を行うなど話題に。しかし、開幕から期待されたながらもシーズンが終わってみれば結局1勝5敗と悔しい結果に。登録されては即抹消を繰り返す昨季の悔しさを晴らすためには、与四球率4.01という数字の改善が急務だ。



能力チャート指標

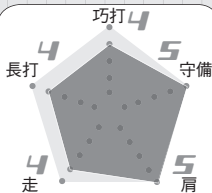


糸井嘉男

7

187cm/88kg/右投左打1981.7.31生/35歳

日本が誇る「ミスター身体能力」。フィジカルで肩を並べることができるのは、ソフトバンクの柳田悠岐ぐらい。昨季は開幕からの不調が長引き、結果としてこれがチームの低迷に直結。終盤戦に本来の調子を取り戻すとチームも最下位を脱出。やはりオリックスの命運は糸井にかかっている。



能力チャート指標

野手 FIELDER

ニュータイプ NEW TYPE

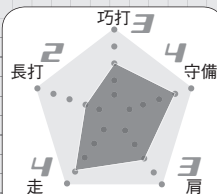
糸井嘉男を筆頭に、オリックスには高い身体能力を誇る「ニュータイプ」が多く在籍している。

安達了一

3

178cm/77kg/右投右打/1988.1.7生/28歳

中島をファーストに追いやった張本人。いわゆる「職人型」の王道タイプかと思いきや、細身ながら意外とパンチ力も兼ね備。決して目立った成績を残してきたわけではないが、入団2年目からショートポジションを与えられ続けているのは、スピード豊かな身体能力の高さも大きい。



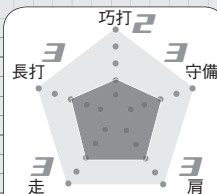
能力チャート指標

中島宏之

1

180cm/90kg/右投右打/1982.7.31生/33歳

本来であれば中島も、もともとは「強打のショート」という純然たるアスリートタイプ。オリックスではチーム事情もあってファーストに回るケースが多いが、根本的には打って、走って、守ってが身上の選手。ショートへ再コンバートさせれば、西武時代の豪打も戻ってくるか!?



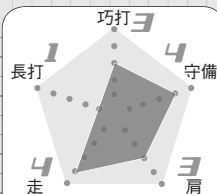
能力チャート指標

岩崎恭平

30

178cm/73kg/右投左打/1986.4.4生/29歳

50m5秒66というタイムを誇る章駄天。足のスペシャリストとして、「王道系」に属するかと思いきや、最大の特性は「動体視力」。その数値は「静体視力」と同じ。つまり、動く物と止まっている物が同じように見えるという事。これは、まぎれもなく「ニュータイプ」に認定!



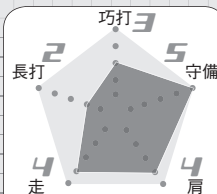
能力チャート指標

駿太

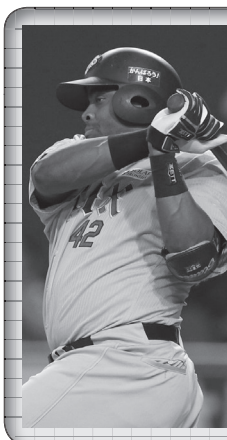
8

180cm/80kg/右投左打/1993.3.5生/22歳

超人・糸井の後継者候補ナンバーワン。守備と走力はずでにプロの世界でもトップクラス。高卒1年目に開幕スタメンを勝ち取るなど、球団からも早くから期待をかけられている。スピードについて本人は加速力に欠点があると語るが、技術が追いついて来れば、糸井超えも夢ではない。



能力チャート指標

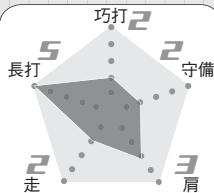


T.ブランコ

42

188cm/102kg/右投右打/1980.11.10生/36歳

日本野球の「王道」というよりは、助っ人外国人の「王道」。丸太のような腕をぶん回し、ボールをはるか彼方まで飛ばす。近年あまり見かけない、助っ人らしい助っ人だ。ただし、昨季は故障と不調のダブルパンチで来日後初の1ケタ本塁打に。今季の成績が来季以降の去就に直結するだろう。



能力チャート指標

野手
FIELDER

王道
タイプ
STANDARD

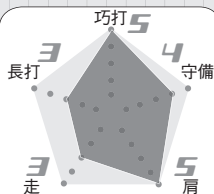
豪快な関西野球を継承する王道選手も、オリックスというチームの魅力のひとつになっている。

T-岡田

55

186cm/96kg/左投左打/1998.2.9生/27歳

現在では中村剛也、中田翔らに次ぐパ・リーグの和製大砲候補。10年に33本塁打でタイトルを獲得した際は、「覚醒か」と騒がれたが、調子が長続きせず。14年に24本塁打と久しぶりに元気なところを見せても、昨季本塁打は半減。今季は、本当の意味での開花が待たれる。



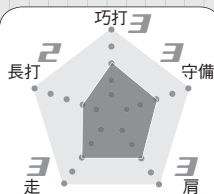
能力チャート指標

小谷野栄一

31

177cm/94kg/右投右打/1980.10.10生/35歳

いかにも日本人が好きそうな、「クラッチヒッター」タイプ。ただし、イメージとは裏腹に、足は決して遅くなく、内外野を守る器用さも持ちあわせている。出場機会を求めてFA移籍したはずの昨季は、前年よりさらに試合数を減らしてしまった。松坂世代の一人。ここが正念場だ。



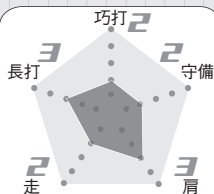
能力チャート指標

宮崎祐樹

24

178cm/85kg/右投右打/1986.11.27/30歳

愛称は「タイソン」で、イメージそのままのパワーヒッター。福良淳一監督の肝いりで、近年出場試合時間が増えつつある。昨季は自身のキャリアハイだった13年を超える33安打、14打点を記録。前回のキャリアハイ時は翌年、大きく出場試合数を減らしただけに、今季は気合いが入る。



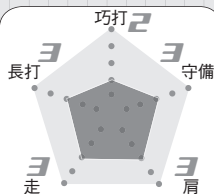
能力チャート指標

吉田正尚

34

173cm/80kg/右投左打/1993.7.15生/23歳

大学ジャパンの4番を務めたドラ1の大砲。身長は170センチと小柄だが、しっかりと身体にタメを作ってスイングするため、ボールが遠くに飛ぶ。小柄なアーチストは野球界では「異端」ではあるが、本塁打を打つ技術を継承しているという意味では「王道」系選手といってもいい。



能力チャート指標